

選択必修領域 8月6日(火) その1

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭、小:小学校教諭、中:中学校教諭、高:高等学校教諭、特:特別支援学校教諭、養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-1	近年の自然災害と学校防災	6時間	全職種	幼・小・中・高・特	150名
講師：藤岡 達也					
<p>教育界にも大きな衝撃を与えた東日本大震災発生後も、近年各地で様々な自然災害が発生しており、文科省はじめ教育行政や学校教育現場もその対応に追われている。本講座では、日本で発生したり、今後発生したりする可能性が高い自然災害について紹介し、東日本大震災をはじめ近年の自然災害の教訓をもとに学校はどのように防災・減災を進めて行くべきか、その課題は何かを探る。また被災地をはじめ各地では、どのような取組が進んでいるかも紹介し、これからの学校安全、学校危機管理について論究する。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-2	就学前教育と子どもの発達 －近年の状況変化と新たな課題－	6時間	全職種	幼・特	100名
講師：奥田 援史					
<p>就学前の子どもを対象とした教育・保育、子育て支援、早期教育などの現状と課題について理解する。また、就学前教育に関するエビデンスを確認し、子どもの発達を保障する教育・保育のあり方を考える。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-3	学校をめぐる 近年の状況変化と新たな課題	6時間	全職種	小・中・高・特	60名
<p>テーマ：学校教育をめぐる社会の変化</p> <p style="text-align: right;">講師：濱 貴子(富山県立大学)</p> <p>本担当部分では、学校教育をめぐる社会の変化を概観し、学校教育の今後を展望する視点の獲得をめざす。まず、消費社会・情報社会・格差社会の進展による子どもや家庭をとりまく生活環境の変容と現状を把握する。そのうえで、PISA、TIMSS、全国学力・学習状況調査といった各種学力調査より子どもの学力の現状を、また、各種統計調査よりいじめ、不登校、少年犯罪など生徒指導上の諸問題の現状を確認する。最後に、教育改革にかかわる近年の答申・提言等を整理し、学校教育の今後の方向性について考察する。</p>					
<p>テーマ：児童生徒・保護者の変容とこれからの学校・教師</p> <p style="text-align: right;">講師：太田 拓紀</p> <p>本担当部分では、変容する児童生徒・保護者の現状と課題にせまり、今後求められる学校や教師のあり方を考察する。具体的には、コンサマトリー化、多元的自己、クレーム問題といった子ども・保護者の価値観・行動様式の問題や、協働性、自律性などに関わる新たな学校・教師の方向性について取り上げる。子どもと保護者、学校と教師の問題を、社会との関係からとらえなおすことで、各自の教育実践に資する新たな視野の獲得をめざす。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-4	「道徳の教科化」と授業の充実 －考え、議論する道徳－	6時間	全職種	小・中・特	30名
講師：川那邊 正(草津市教育長)					
<p>小中学校で「特別の教科 道徳(道徳科)」が始まりました。授業では、「考え、議論する道徳」をどう展開するかが大きな課題です。また、いじめの未然防止に道徳教育の果たす役割も大きいといわれています。さらに、児童生徒を認め、励ます評価についても一層理解を深めなければなりません。このように、道徳教育にはこれまで以上に力を入れた取組が求められています。</p> <p>そこで、本講習では、道徳教育の基本理念や意義、指導方法、評価等についての理解を深め、充実への方途を見出すことにします。特に、教材解釈や授業構想では、具体的な教材を取り上げ、協議や演習も取り入れながら、実践に繋がる内容にしたいと思えます。</p> <p>受講されたみなさんには、「考え、議論する道徳」に向けて授業力を磨くとともに、学校の道徳教育全体を推進する力も高めていただくことを期待しています。</p>					

選択必修領域 8月6日(火) その2

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-5	教育理念を共有しながら進める学校、園、地域社会との連携及び協働	6時間	全職種	幼・小・特	50名
講師：中井 清津子(相愛大学)					
<p>予測不可能な時代に生きる子どもたちは、これからどのような未来を創っていくのか、また、社会や人生をよりよいものにするために、人間として何が大切なのかなど、学校教育の中でこれからの時代に求められる資質や能力について新たな視点から論じられています。このような中で、学校園の教育が社会に開かれ、家庭、地域社会と教育理念を共有しながら、様々な教育課題について連携し、子どもの成長に社会全体で協働的にかかわっていく取り組みについて考えましょう。</p> <p>【・連携及び協働の必要性・幼児、児童にとっての意義・具体的な実践紹介（コミュニティスクール等）・ワークショップ(連携、協働を生み出す工夫と実践)】</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-6	グループ活動を通して考える学校の安全管理と安全教育	6時間	全職種	小・中・特	30名
講師：南出 儀一郎(滋賀県教育会 副理事長・副会長)					
<p>現場の学校では、児童生徒の安全に関わる様々な問題が起こっている。このような学校が抱える多様な問題や課題について、事例を挙げ、危機管理の点から学校、保護者（家庭）、地域がどのように関わっていけばよいかについて考える。また、児童生徒への安全教育の在り方について、学習指導要領をもとに考える。グループ活動では現場の事例を出し合いながら、グループで考え合い、明日への実践につないでいきたい。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-7	教育における心理的支援Ⅰ	6時間	全職種	小・特	60名
<p>テーマ：環境的要因と特性的要因の見立てと心理的支援</p> <p style="text-align: right;">講師：芦谷 道子</p> <p>子どもの心理的問題を理解し、支援するために重要な環境的要因と特性的要因について、主に愛着障害と発達障害の観点から理解を深め、見立てに基づいた心理的支援について学びを深めます。心理的支援としては、カウンセリングマインドやスキル教育的支援、環境調整、保護者支援、予防教育的支援などについて、具体的、実践的に考えていきます。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-8	教育における心理的支援Ⅱ	6時間	全職種	中・高・特	50名
<p>テーマ：教師とスクールカウンセラーとの連携</p> <p style="text-align: right;">講師：井芹 聖文(就実大学)</p> <p>教師とスクールカウンセラーとの望ましい連携のあり方を考えたいと思います。具体的には、教育と心理臨床の視点の相違、カウンセリング・マインド、さらには不登校などの諸問題をめぐる理解と対応の概要を学びながら、架空事例を素材にしたグループ・ディスカッションを行います。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-9	ソーシャルメディア社会における諸課題とICT活用	6時間	全職種	小・中・高・特	50名
講師：松原 伸一					
<p>「社会の情報化」は「情報の社会化」という現象を生じ、「メディアの社会化」をとめない、ソーシャルメディアの存在感を顕著にしている。</p> <p>本講習では、まず、(1)「社会の情報化」から「情報の社会化へ」の移行について解説する。次に、(2)「教育の新科学化」として、2a「新しい教育内容」、2b「新しい教育方法」、2c「新しい教育手段」について論じ、2aでは情報安全、2bではアクティブラーニング、2cではICT活用について取り扱う。さらに、(3)「情報とメディアの科学」として、メディア情報学をベースにした「教育の情報化」を取り上げ、ソーシャルメディア社会の教育について考察する。</p>					

選択必修領域 8月6日(火) その3

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
B-10	心のバリアフリーと学校における交流と共同学習の推進	6時間	全職種	幼・小・中・高・特	50名
講師：田村 靖二					
<p>様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合う「心のバリアフリー」では、私たち一人ひとりが、正しい社会認識と他者の心を理解しようとするのが大切です。また、数多くの方が、「心のバリアフリー」の大切さを理解し、その実現に向けて協働する社会となることが重要です。近い将来の社会を担う子供たちが「心のバリアフリー」を学び、育むことは、子供たちのみならず保護者や家庭、地域社会への発信力となるものです。学校では、学校間の連携を含めて、例えば、障害ある子供や障害のない子供が共に生活を学ぶ中で「心のバリアフリー」教育を推進することが求められています。本講座では、多文化共生社会に向けて、「心のバリアフリー」について、共に学び考えていきます。</p>					